

令和2年度神奈川県献血推進協議会 開催結果

(令和3年2月15日～3月10日 書面開催)

1 議題

令和3年度神奈川県献血推進計画(案) : 承認する18人 / 承認しない0人

上記のとおり、議題は承認されました。

2 その他

各委員から、次のとおり御意見、御質問が寄せられました。

いただいた貴重な御意見等は、今後の献血推進の参考とさせていただきます。

○ 新型コロナの影響で輸血用の血液の確保が難しいと言われる中、SNSの活用などで令和2年度の達成が出来る見込みとの事ですので、引き続き若年層を対象とした広報活動を展開し令和3年度の目標達成に取り組んで頂きたいと思います。(神奈川県議会 あらい委員)

○ 令和2年度、コロナ禍によってイベント会場や企業、学校における献血バスでの献血呼びかけが大幅に制限される中において、必要な血液を確保出来る見込みであることは、献血事業に従事する方々の努力の賜物であると感謝します。(神奈川県議会 小林委員)

○ 献血目標量について、成分献血の量を増やして、全体の献血量101.8%(前年比)と設定。献血者の体の負担軽減にもなると思うので、良いと思いました。

県職員の献血について、市町村職員向けの企画予定はあるのでしょうか。資料の人数報告によると、県のみで市町村の実施がされていないように思えました。(株式会社テレビ神奈川 境委員)

【事務局回答】

資料には県と神奈川県赤十字血液センターの取組結果しか記載できておりませんが、県内の多くの市区町村役場等で職員献血を実施しております。

○ この間の県下における献血推進の取り組みに敬意を表します。単純な感想で恐縮ですが、資料裏面に記載の市町村実績を見ると、実績人数の達成率も多く市町村で高い状況ではありますが、一部50%以下の自治体もあるので、今後の課題であると考えます。もちろん、さまざまな知恵を出しながら取り組んでいただいていると思いますが。

また、私事で今さらながらですが、昨年末に運転免許更新の際に献血ルームを訪れ、久しぶりに「献血カード」をいただきました。日々の健康状態を見ながら定期的に献血を行っていきたいと思います。(連合神奈川 島委員)

○ 先日利用したセンター南駅献血バスでは、待ち人数が5名という利用状況でした。そのような会

場の日程を増やすことも必要かなと思いました。 (公募 千葉委員)

○ ① 献血量の確保について

コロナ禍で献血が出来ず、血液の不足が発生する対策はどのような措置を取るのか。

② 血液の安全性向上性について

献血提供者が、採血時ウイルス保菌者として自覚せず万一善意の採血を行った場合、病原体の不活化、除去技術の向上、より高感度かつ高精度の検査方法の担保はどのような方法が有りますか。

③ 普及啓発について

最近の若年層の現象として SNS の拡散が大変有効であり、これを活用すべきである。

(神奈川県赤十字協議会 中嶋委員)

【事務局回答】

①②につきましては、神奈川県赤十字血液センターの回答を御参照ください。(次頁)

③につきましては、今後もツイッター等による方法を積極的に活用していくよう検討します。

○ 2020年度(令和2年度)にあっては、コロナの影響で献血の現場でたいへんご苦労されたとうかがっています。新年度に関しても、採取側、提供側双方が安心できる環境づくりに努めていただければと思います。(株式会社神奈川新聞社 畠山委員)

○ 新型コロナウイルス感染症に関して、緊急事態宣言発出や、外出等の自粛などにより、献血目標の達成はいかがかと心配いたしましたが、ご報告を拝読し、概ね達成の見込みと知り、安堵いたしました。(NPO 法人アドバイザーネットワーク神奈川 藤澤委員)

(50音順、敬称略)

神奈川県献血推進協議会委員からの質問、意見について（回答）

質問①：献血量の確保について

コロナ禍で献血ができず血液の不足が発生する対策はどのような措置をとるのか。

<質問①への回答>

全国的にコロナ禍の影響により、企業・団体献血の中止延期が相次ぎ、神奈川県内でも在庫が逼迫する状況がありました。このような中、厚生労働省より「献血は不要不急な外出にはあたらぬ」旨の発表がされ、当センターでは献血バスの受付時間延長や、ご登録いただいた方々への電話・メールによる依頼要請、報道各社に向けた press release の投稿のほか、様々なキャンペーン等を実施し献血者確保に努めているところでございます。

また、コロナ禍における 3 密を防ぐ取組みとして事前予約の推進をおこない、皆様に安心した献血環境をご提供する為、感染症予防対策にも万全を期して参りました。

全国の血液センターでは血液の適正在庫を維持するため、各県単位での採血過不足を調整するための「広域需給管理体制」が確立しており、全国規模での在庫の安定的な維持管理に努めています。

質問②：血液の安全性向上性について

献血提供者が、採血時ウイルス保菌者として自覚せず方が一、善意の採血を行った場合、病原体の不活化、除去技術の向上、より高感度かつ高精度の検査方法の担保はどのような方法がありますか。

<質問②への回答>

現在は、問診等により、新型コロナウイルスの感染の疑いのある献血者の方からの採血を行っていません。また、献血後 4 週間以内に新型コロナウイルスの感染が判明した場合、ご本人より連絡をいただき、未然に輸血されることを防ぐよう対策を取っております。

なお、文献によりますと、無症候感染者（問診通過）の採血があった場合でも、血液中には新型コロナウイルスの遺伝子である RNA は検出されることがありますが、その RNA があったからといって献血血液から輸血患者に感染するわけではなく、SARS や MARS、そして今回の新型コロナウイルスでも輸血によって伝播した例は今まで一例も無いとのこと。

また、以上の対策及び知見を基に、ご質問にございます新型コロナウイルスに係る病原体の不活化や除去技術及び高感度かつ高精度の検査方法：PCR 等、輸血用血液製剤のスクリーニングにつきましては、現段階では導入の予定はございません。